



現庁舎地利活用について考える 市民ワークショップ

さいたま市 都市戦略本部 都市経営戦略部
都市局 都心整備課

令和5年8月19日（土）



もっと身近に、
もっとしあわせに



1. ワークショップのテーマ・流れについて

2. 浦和駅周辺まちづくりビジョンについて

3. 現庁舎地利活用の検討経緯について

4. 本日のワークショップについて



1. ワークショップのテーマ・流れについて

浦和駅周辺まちづくりビジョンを踏まえた

「現庁舎地の利活用策」

について、様々なご意見やアイデアを伺うため、市民の方々による「ワークショップ」を開催いたします。



1. ワークショップのテーマ・流れについて

ワークショップ全体の流れ

1日目のテーマ

現庁舎地の
新たな機能について考えよう

2日目のテーマ

敷地のレイアウトや過ごし方
について考えよう

敷地
見学

個人で
考えよう！

みんなで
考えよう！

発表

個人で
考えよう！

みんなで
考えよう！

発表



2. 浦和駅周辺まちづくりビジョンについて

本市が策定した
「浦和駅周辺まちづくりビジョン」について

ご説明させていただきます。



浦和駅周辺 まちづくりビジョン



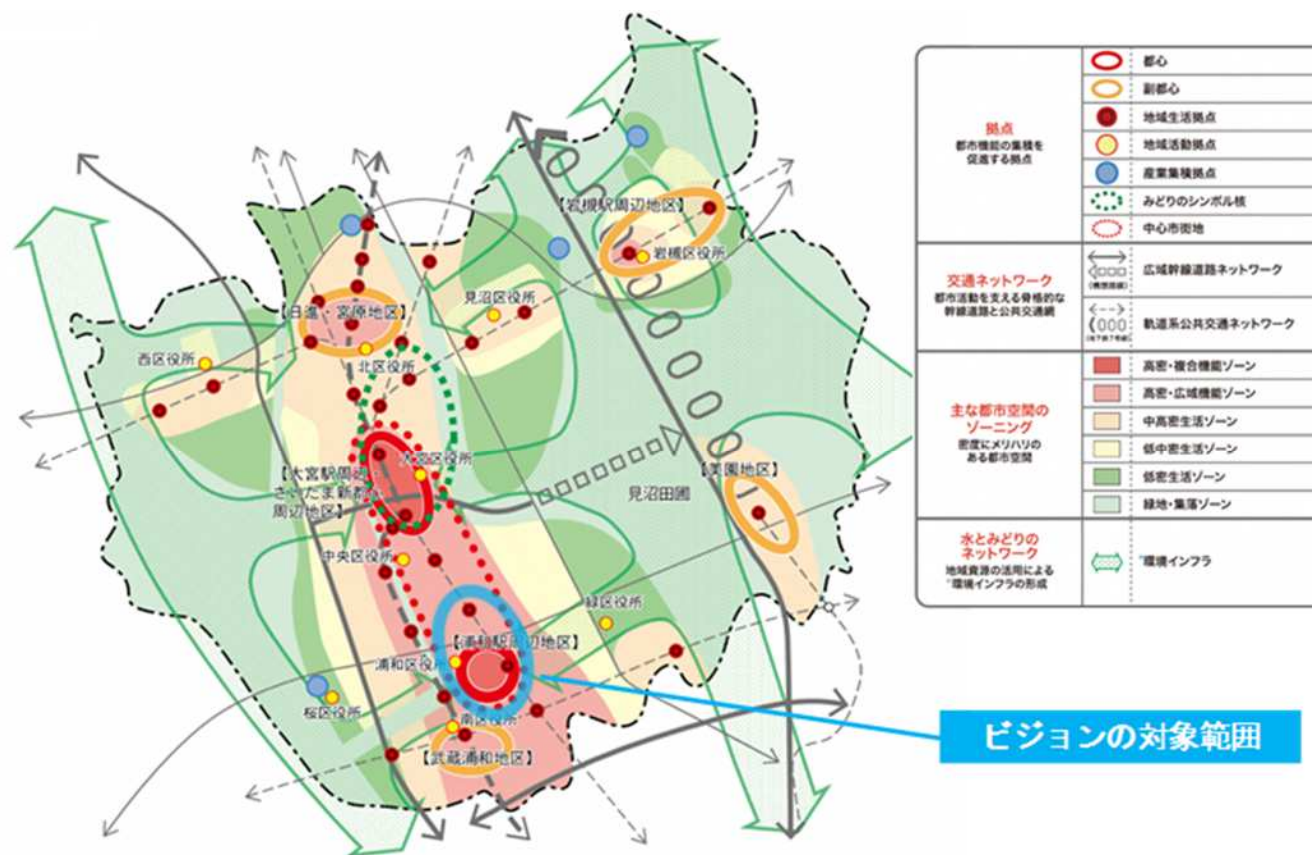
策定の背景・目的

浦和のまちに係る市民、事業者、行政等の多様な主体が共有する指針として「浦和駅周辺まちづくりビジョン」を策定

目標年次

概ね30年後(令和32(2050)年頃)のまちの姿を展望し、その実現に向けたまちづくりの方針を示す

対象範囲





2 浦和駅周辺地区の 果たすべき役割

将来を見据えて浦和のまちが重視すべきもの

- ①強みを伸ばすグローバルな視点
- ②非常時の機能維持
- ③浦和が誇るプライドと多様性
- ④将来に向けたスマートなまち・人
- ⑤心を動かす路地性・界隈性



3 浦和の宝

3-2 浦和のまちの特長

① 文化
・
教育

② スポーツ
(サッカー等)

③ 県都
・
行政

④ 居住
・
交通

⑤ 商業・業務
(地域経済)

⑥ 緑
・
景観

⑦ 防災



3-3 浦和のまちの宝

浦和のまちへの想い

浦和には、山のような自然はありません。でも、県庁前の坂には、並木や意外に気持ちのいい勾配がついています。

別所沼には、沼、緑、公園、さらに、額縁屋、ヒアシンハウスなどの文化的資産があります。文化と別所沼が響きあっているこの場所では、**文教都市浦和**を感じることができます。

浦和のまちを歩いてみると、楽しいストリートがたくさんあります。歩いて楽しいから、商業も栄える、それから文化も花開く。

ひとが関わり合う、**そんな風景**が、浦和の路地にはあります。

ひとがちょうどいい距離でつながり、**ひと**にとってちょうどいい自然が感じられる——それが、浦和のまちです。

サッカーの試合の日にまちを歩いてみると、ユニフォームを着たひとたちがたくさんいます。

まち中が赤い旗でいっぱいになって、応援をしている。**スポーツを通して、コミュニティ**ができて、**みんなが元気**になっていく。

歓喜も苦渋も共有した、浦和駒場スタジアムが聖地となっている。それも、浦和のまちです。

明治時代、**県庁所在地**となった浦和には、埼玉県師範学校という教師のための学校ができ、優秀な人材（先生、生徒）が集まりました。

画家で図画教諭の福原霞外に教えを受けた学生は1000人余りともいわれ、細木志朗が創設した蹴球部で取り組んだ教え子は、**埼玉にサッカーを広めました**。

先生から生徒へ伝わり、生徒が先生となって文化芸術、スポーツの振興に貢献する。

昔から浦和は、**ひと**を通して**ひと**が学び、**成長するまち**であったことがうかがえます。

浦和のまちの宝

浦和のひとが長い年月を経て培ってきた
県都や文教都市、スポーツなどがまちの誇りであり、
それらを生み出し、育て、継承している「浦和のひと」こそが
浦和のまちにとって、何よりも輝く
将来に継承すべき“浦和のまちの宝”である

浦和のまちの宝

浦和のひと

—— 誇り・愛着 ——
URAWA PRIDE



4 浦和のまちの将来像



4-1 基本理念

Well-being（幸福な状態・生活の豊かさ）の向上

【基本理念】

**（成長）
持続可能性**

時代や社会の変化に柔軟に対応し、
ひと・環境・経済の好循環を
生み出し続ける

ひととまちの相互の成長を促進し、持続可能な地域社会の構築を目指す

**（まち）
個性の継承**

開発と保全のバランスを保ち、
浦和の魅力・価値を未来に
つないでいく

**（ひと）
ひと中心**

市民や来訪者から選ばれ、
誇り・愛着をもって
暮らし続けることができる

4-2 将来像

まちの将来像

洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、
風格で魅了する都心・浦和

4-2 将来像

世界に冠たる 文教・スポーツのまち

浦和のまちが世界に誇る「文化・教育」や「スポーツ」について、浦和を象徴するグローバルな魅力・個性として、新技術等を積極的に取り入れながら磨き上げ、世界基準のまちを目指していきます。

文化・教育／スポーツ

文化・教育・スポーツは、浦和のまち・ひとを象徴する魅力・個性として、グローバルな視点で磨き上げていく

県都として風格のある 暮らしのまち

浦和のまちが今後も市民や来街者等に選ばれ続けるまちであるために、浦和の魅力・個性である「県都」や「居住・交通環境」、「商業・業務環境（地域経済）」について、新技術等を活用し、その特長を生かしながら、誇りや愛着をもって暮らすことのできるまちを目指していきます。

県都／居住・交通環境／ 商業・業務環境（地域経済）

市民や来訪者から選ばれ、誇り・愛着をもって暮らし続けるために、浦和のまち・ひとの個性を生かして磨いていく

誰もが安全安心、 快適に活動できるまち

今後も浦和のまちが都心としての都市環境・都市機能の維持・向上を図るため、浦和の魅力・個性である「緑・景観」や「安全・安心」、「環境・エネルギー」について、新技術等の活用を図りながら、その環境の維持・更新や最適化を推進し、今後も本市を代表する都心のまちを目指していきます。

緑・景観／安全・安心／ 環境・エネルギー

都心のまちとして、スマートシティを目指し、新技術を活用しながら、都市機能を引き続き維持・向上していく

新技術で全体を更新

5 まちづくりの展開

埼玉サッカー発祥の地

5-1 まちづくりの方針

方針 1

『浦和のまちの魅力が成長する“リ・デザイン”』

※浦和のまちのリ・デザインとは……

完成された『まち』を、最適化のために再構築すること

方針 2

『浦和のひとが成長し続ける“サステイナブル・サイクル”』

※浦和のサステイナブル・サイクルとは……

まちの主役である『ひと』の成長を支える持続可能な循環の仕組み

5-2 まちづくりの展開

【展開1】

浦和の文化・教育・スポーツを日常で体感し、楽しめる場の創出

【展開2】

県都・都心にふさわしい、風格のあるまちの再構築

【展開3】

浦和らしい、多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成

【展開4】

誰もが快適に移動できるネットワークの強化

【その他の展開】

まちの環境の最適化

展開

1

5-2 まちづくりの展開

浦和の文化・教育・スポーツを日常で体感し、楽しめる場の創出



スポーツ文化振興ゾーン

- ◆ グローバルで多彩なスポーツをする・観る・支える・学べる環境の整備
- ◆ スポーツ施設の建替え・更新と合わせた新たな機能・価値の導入

文化芸術保全活用創造ゾーン

- ◆ 浦和絵描きなどの文化芸術資源に触れる・体感できる・学べる・自らも表現することができる環境の整備

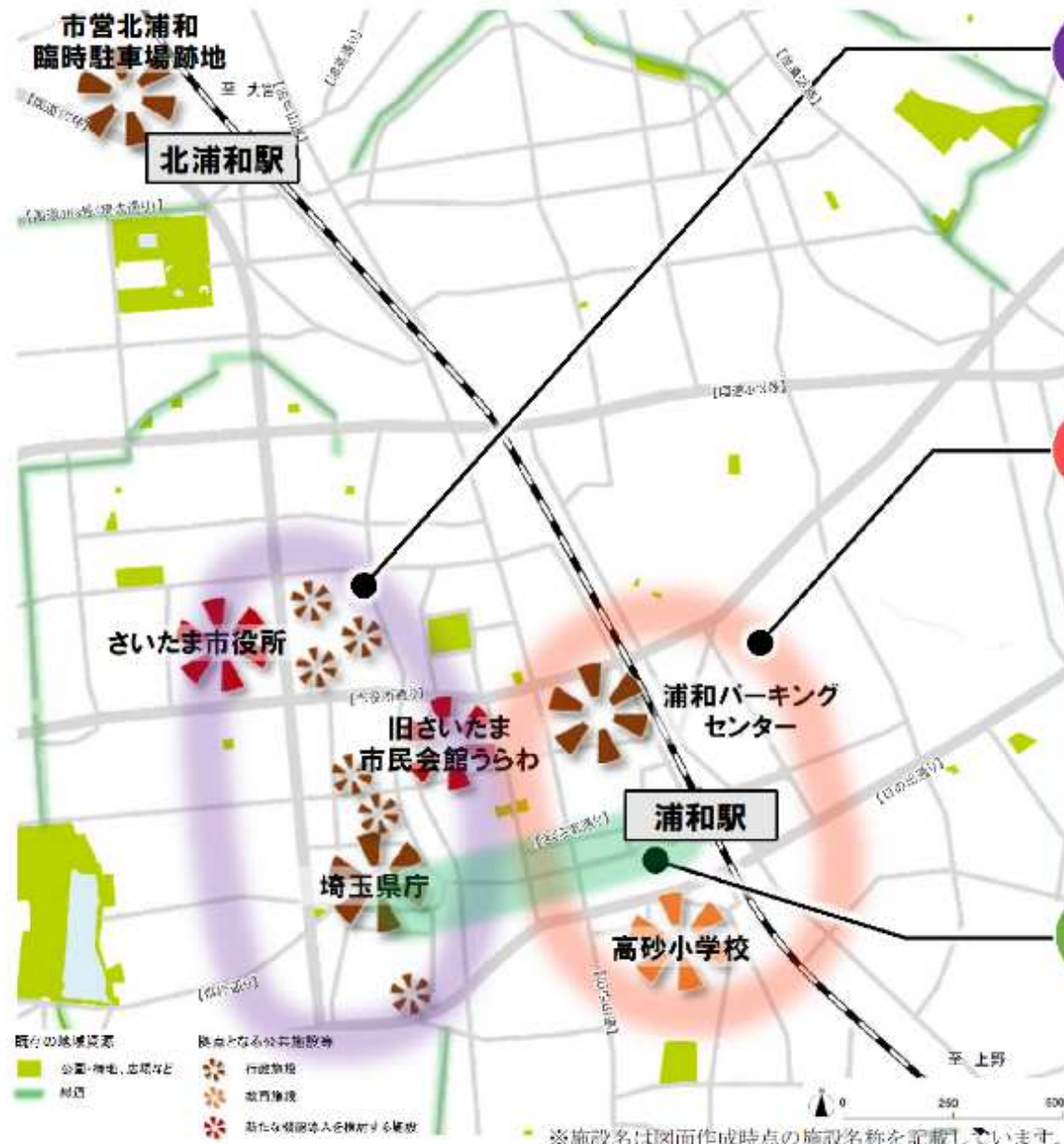
歴史文化保全活用ゾーン

- ◆ 中山道などの歴史文化資源を知る・見る・体験する・学べる環境の整備
- ◆ グローバルに活躍できる力を育成する新しい時代の学びの実現

展開 2

5-2 まちづくりの展開

県都・都心にふさわしい、風格のあるまちの再構築



風格ある県都創造ゾーン

- ◆ 公共施設の建替え等に合わせた都市機能の再編・適正配置（現庁舎地の利活用方策の検討等）
- ◆ 環境・エネルギーや防災機能等に配慮した施設の整備

駅前再構築ゾーン

- ◆ 環境・エネルギーや防災機能等に配慮した商業施設等の建替え促進
- ◆ 県都・都心としての防災機能の強化（駅前滞在者安全性確保・帰宅困難者支援等）
- ◆ 土地の高度利用化等と合わせたゆとりある空間の創出と都市機能の複合（ミクストユースなまちづくり）

風格あるまち並み形成軸

- ◆ 県都・都心として賑わいや落ち着き風格を感じるまち並み景観の形成

展開

3

5-2 まちづくりの展開

浦和らしい、多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成



快適性重視ライフスタイルゾーン

- ◆ 自然を近くに感じながら、生活利便性、コミュニティなどバランスの良い高質な住環境の維持・形成

利便性重視ライフスタイルゾーン

- ◆ 買い物や娯楽等の様々なサービスが利用しやすく、利便性に優れた居住環境の形成

都心居住、商業・商店街ゾーン

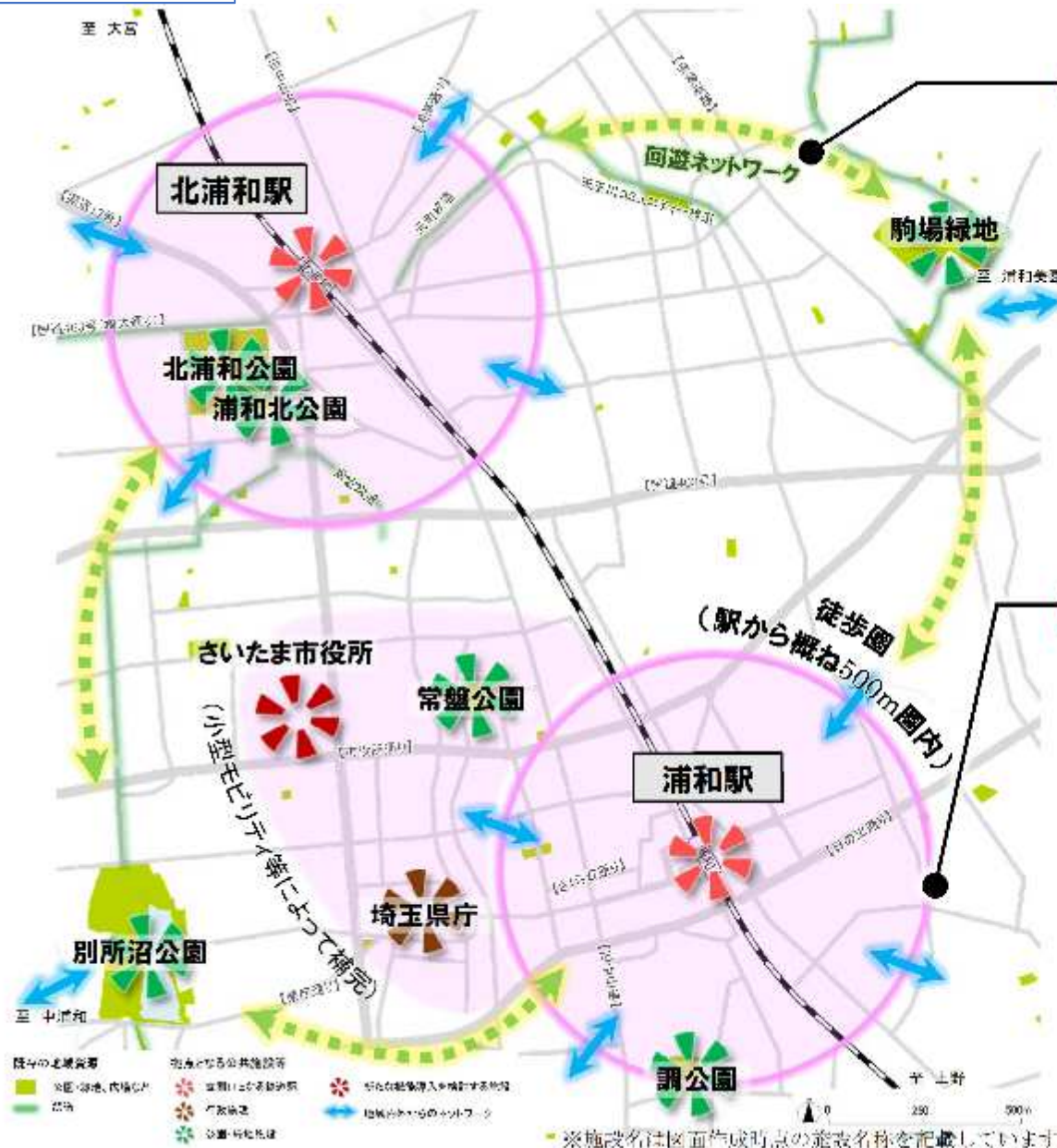
- ◆ 歴史を感じるまち並みや界隈性あるヒューマンスケールな通りを生かした商業環境の形成と保全
- ◆ 都心居住環境・商業環境として居心地の良いウォーカブル環境創出
- ◆ 浦和のひとや来街者でにぎわう商店街等の活性化

展開

4

5-2 まちづくりの展開

誰もが快適に移動できるネットワークの強化



回遊ネットワーク

- ◆ 地域の緑地資源を結ぶ緑のエコロジカルネットワークの形成／グリーンインフラの推進
- ◆ 高齢者や障害のある方など誰もが移動しやすい交通環境・サービスの提供（MaaSなど新たなモビリティサービスの活用）

ウォーカブル空間創出ゾーン

- ◆ 居心地の良いウォーカブルなまちなか環境の創出
- ◆ 安全で快適に移動できる歩行者ネットワークや自転車等の交通環境の形成、駐輪場・駐車場等の適切な配置、バリアフリー化の推進
- ◆ 主要な公共施設等における小型モビリティポートの整備



6 まちの将来像の 実現に向けて



6-1 ひと中心の都市デザインの考え方

ひと中心の都市デザインによるまちづくり

公民連携まちづくりの推進
(エリアプラットフォームの構築)

● エリアプラットフォームの構築

市民協働のまちづくりの推進
(情報の発信・共有／参加機会の構築)

- 多様な手法によるまちの情報の発信・共有
- 市民がまちづくりに参加できる機会の構築

現在、本市が進めている
現庁舎地利活用の検討経緯や検討状況を
ご説明させていただきます。



平成12年度

- **合併協定書調印【平成12(2000)年9月】**
「将来の新市の事務所の位置については、さいたま新都心周辺地域が望ましいとの意見を踏まえ、新市成立後、新市は、交通の事情、他の官公署との関係など、市民の利便性を考慮し、将来の新市の事務所の位置について検討するものとする。」

平成14年度

- **新市庁舎庁内検討会議【平成14(2002)年度～20(2008)年度 計21回開催】**

平成20年度

- **さいたま市庁舎整備検討委員会【平成20(2008)年度～23(2011)年度 計7回開催】**

平成24年度

- **さいたま市本庁舎整備審議会【平成24(2012)年度～29(2017)年度 計21回開催】**

平成30年度

- **審議会答申【平成30(2018)年5月】**
- **本庁舎耐震補強工事完了【平成28(2016)年10月～平成31(2019)年2月】**

令和元年度

- **本庁舎整備検討調査**
- **現庁舎に係る現況調査業務**

令和2年度

- **本庁舎整備等に係る基本的な考え方【令和3(2021)年2月】**

令和3年度

- **市民ワークショップ【令和3(2021)年8月】・タウンミーティング【令和3年(2021)10月～11月】**
- **基本構想(素案)パブリック・コメント【令和3(2021)年10月～11月】**
- **新庁舎整備等基本構想策定【令和3(2021)年12月】**

令和4年度

- **市役所本庁舎のさいたま新都心(大宮区北袋町1丁目603番地1)への移転が決定【令和4(2022)年4月】**



【 新庁舎整備 】

新庁舎の整備場所は、

さいたま新都心
バスターミナルほか街区

とし、

令和13年度を
目途に新庁舎を供用開始

することを目指します。



【 現庁舎地利活用 】

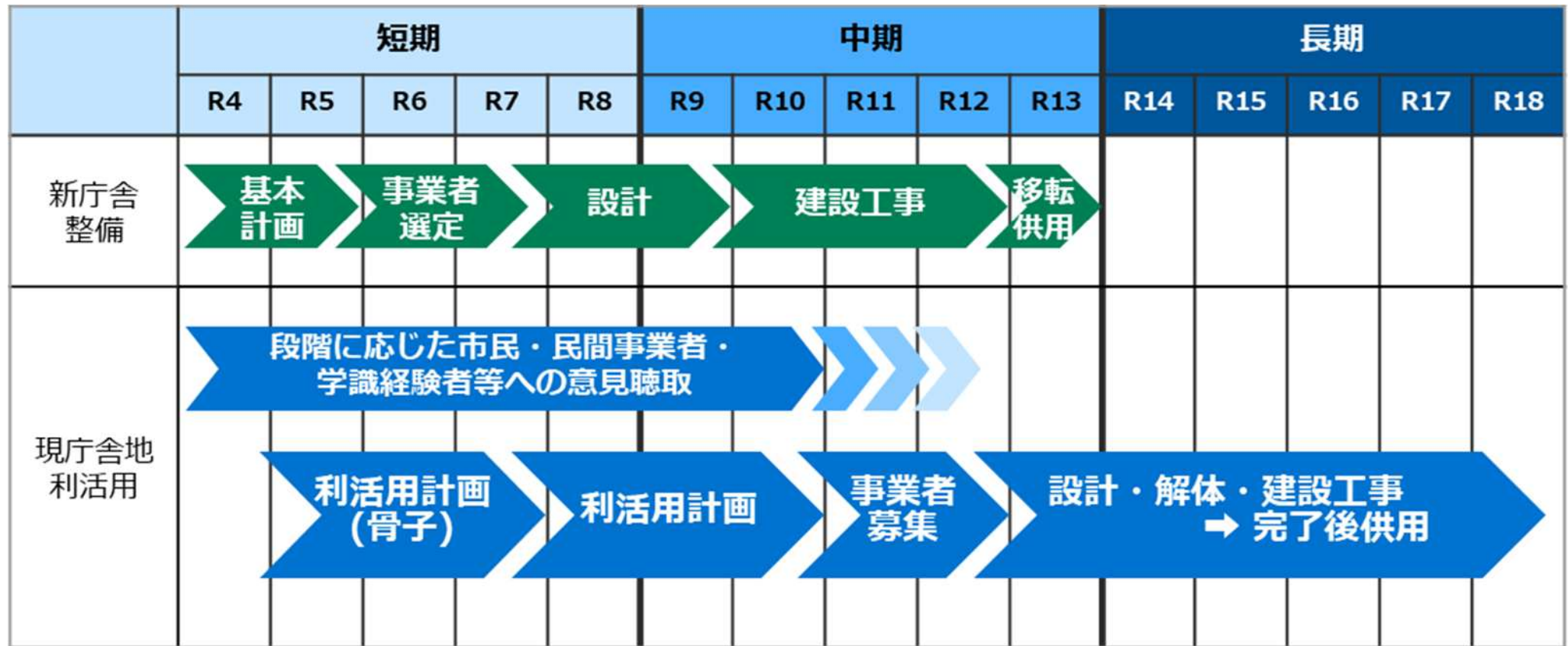
現庁舎地利活用（庁舎移転後、速やかに整備）については、市民サービスの拠点である浦和区役所や浦和消防署の機能を残しつつ、

多様な世代に愛され、
県都・文教都市にふさわしい
感性豊かな場所とすること

を目指すべき方向性としします。
具体的には、

- 文化芸術機能
- 教育・先進研究機能
- 市民交流機能

などを基本に、検討を進めていきます。



※本スケジュールは土地の貸付やPFI等の民間活力による事業手法を基本としたものであり、今後、事業手法等を具体化していく過程で、スケジュールも精査していく。

本庁舎移転後の現庁舎地については、最も身近な市民サービスの拠点である浦和区役所や浦和消防署の機能を残しつつ、浦和の歴史や地域のまちづくりの状況等を踏まえた新たな利活用を行うことで、市民にとってより良い場所となるよう検討を進めていきます。



さいたま市役所

◆現庁舎地の利活用に当たっての基本理念

(1)「県都」「文教都市」を象徴する

(2) まちづくりに貢献する

(3) 豊かな生活につながる

(4)本市の更なる飛躍につながる



◆目指すべき方向性

「多様な世代に愛され、県都・文教都市にふさわしい感性豊かな場所とすること」

① 文化芸術 機能

- ① 本市の歴史、文化、さらには、自然、科学などの未来へのポテンシャルが高い事項について、来館者が幅広く知識に触れ合い、吸収できる機能
- ② ジャンルや世代に捉われない多様な文化芸術についての創造・発信機能
- ③ 芸術文化活動への支援・人材育成機能

② 教育 ・ 先進研究 機能

- ① グローバル人材を育成するため、多言語・多文化環境において、世界中の留学生などと共に学ぶ研究機能
- ② 世界に誇る技術をもつ市内企業と国内外の大学が連携・協働し、AIやICTなどを活用し、最先端技術の研究を行う研究開発機能
- ③ イノベーション機能（インキュベーション機能含む）
- ④ 医療（スポーツ医科学等）に関する教育・研究機能
- ⑤ 企業の先進的な研究や専門的なスポーツ科学等について、市民の学びにつながる機能
- ⑥ 生涯にわたって学びを続けられる機能

③ 市民交流 機能

- ① 広場・緑地などオープンスペース等を活かした、市民のコミュニティ形成や、健康でゆとりあるライフスタイルの形成につながる機能
- ② 集客施設との併設による交流スペースの整備など、施設を介した交流の場、市民参画の場となる機能
- ③ 子どもから大人まで幅広い市民が多世代で交流できる機能

①環境への配慮

- ・環境に最大限配慮した脱炭素化など
- ・周辺の土地利用への配慮や周辺環境と調和した景観形成など



②防災への配慮

- ・オープンスペースや緊急避難場所の確保など
- ・災害時には滞在スペースに転用できる空間や備蓄等の確保など



③地区交通への配慮

- ・アクセス道路や渋滞緩和など
- ・回遊性の向上に資する交通アクセスの検討など



- ◆目的：浦和駅周辺のまちづくりや市役所移転後の現庁舎地の利活用について、市民の皆様から様々なご意見をいただき、今後の検討の参考とすること
- ◆日程：令和4年10月22日～12月18日、2日間ワークショップをA、B、C日程の計3回開催
- ◆会場：ときわ会館 大ホール
- ◆参加人数：143名
- ◆実施方法：7～8グループに分かれてワークショップ形式でグループワークを実施

主な意見まとめ

現庁舎地の利活用策の主なものについて、班ごとに発表。
発表された意見を分野ごとにまとめた内容は以下のとおり。（一部抜粋）

多世代交流の場所

- ・多世代・多様な交流に使える多目的空間
- ・気軽に使える憩いの場
- ・公園、広場、遊び場、スポーツ/イベントスペース
- ・市民利用から国際交流にも使える多目的空間
- ・個人でも複数でも楽しめるスペース
- ・緑（樹木、芝生）、水辺の空間
- ・四季や自然と触れあえる広場
- ・子育てにも使える場所

防災拠点・機能

- ・防災設備を備えた複合施設
- ・災害時も平常時も使える公園・広場、体育館
- ・避難所、備蓄施設
- ・地下シェルター（地下駐車場等の整備）
- ・防災に関する知識を学び、体験できる場所

シンボルとなる機能

- ・浦和のシンボルとなる場所
- ・国内外に埼玉を発信するシンボル
- ・シンボルがある多機能公園
- ・景色の良い展望台

教育（学び）・研究機能

- ・様々な学び・体験ができる施設
- ・学びなおしができる施設（リカレント教育）
- ・研究機関（IT、医療、スポーツ、先端分野）
- ・インキュベーション機能、コワーキングスペース
- ・学校（幼稚園～大学）
- ・幅広い世代が学べる場所、体験学習（ものづくり、音楽、芸術）
- ・知識教養を深める場所

スポーツ・健康増進施設

- ・各種スポーツ施設（多世代で利用可能）
- ・スポーツ教室、レクリエーション施設、運動場、ウォーキングスペース
- ・健康増進施設（多世代健康スポット）

文化・芸術拠点

- ・市民参加の文化機能
- ・芸術家が育つ市民発表の場（情報発信）
- ・図書館、美術館、音楽ホール、劇場など

豊かな生活を送るための施設

- ・カフェ、レストラン、マルシェ（地元産品などの販売/提供）
- ・保育園、老人ホーム、スーパー銭湯

ディスカッションの様子



発表の様子



4. 本日のワークショップのテーマ

現庁舎地の

新たな機能

を考えよう

- ・必要だと思ふ機能
- ・欲しい機能
- ・今ある機能で今後も残したい機能 など



4. 本日のワークショップのテーマ

<目指すゴール>

1. 現庁舎地の新たな機能を検討します。
2. グループごとに新たな機能のメイン機能とサブ機能をまとめます。





もっと身近に、
もっとしあわせに

